

こくりにゅうだより



大阪府立池田高校2年 石田 蒼衣

「もう少しで色づいてくる葉と、フルートを吹くリスで秋らしくしたいなと思い描きました!」

多文化フェスティバル

11/18 (土)

10:30~15:00

世界の遊び体験、スタンプラリー、多文化なお料理など盛りだくさん!

対象:外国につながりのある子どもやその友だち、国際教育に関わっている人

参加費:無料

おまつり地球一周クラブ

~仮装パーティーをしよう!~

11/25 (土)

10:00~12:00

民族衣装を作り、着用してゲームを楽しむ。

先着15名・小中学生対象

参加費:300円

国流シネマカフェ

「十二人の怒れる男」

11/25 (土)

18:00~20:00

先着20名

参加費:無料

(当日ドリンク販売致します)

9月24日(土) こども母語 交流会 南米イベント



とよなか国際交流センターの事業の一つ「こども母語」では、現在スペイン語、ポルトガル語、タイ語、中国語の4つの教室が開催されていますが、今回はそのなかでもスペイン語、ポルトガル語のスタッフが中心になって「南米イベント」をおこないました。

今回のイベントでは、ブラジルの朝ごはんによく食べられるというハムとチーズを挟んだパンと、パステウ（ブラジル風揚げ餃子）をみんなで作って食べた後、ペルー出身のスタッフによるサルサダンスのレクチャーがあり、最後は保護者も併せてみんなでサルサダンスを踊りました。中にはクルクル回って踊る子どももあり、みんなノリノリ！の楽しい時間を過ごしました。

こうした母語の合同イベントは、普段の母語の活動ではそれぞれ別の教室で学ぶ子どもたち同士がつながるきっかけ作りにと始まりました。今回のイベントでも、言葉やルーツを越えて仲良くなれたと思います。



コラム 外国人相談あれこれ (第46回)



吉嶋かおり (外国人のための多言語相談サービス・相談スタッフ)

子どもが幼いときに離婚したAさんは、夫の主張を受け入れ、親権をあきらめて帰国しました。子どもが安定して成長できることを信じての選択でした。経済的に厳しい国のほうの親は、子どもを思っこのような選択をすることがあります。自分の国では、十分に教育を受けさせることができないためなのです。

離婚後、夫はAさんと子どもとの連絡を絶つたため、Aさんは子どもと会うことも、話をすることもできないまま年月が経ちました。しかし、インターネットの普及で、直接子どもと連絡をとることができるようになりました。それまで夫は、Aさんの悪口を子どもに伝えていたようで、子どもは母親に捨てられた、と思い込んでいたのです。

再来日したAさんは、別件で夫と弁護士を通して協議をしていました。夫は、その件とは無関係なのですが、「子どもとの関係を今後一切絶つこと」を要求に加えてきました。Aさんは弁護士に「それでいいです」と答えました。しかし私は弁護士に、「合意書には、これは夫の要望であって、Aさんの考えではないことがわかるような書き方をしてもらえないだろうか」と言いました。これは決してAさんが心から了承しているわけではないだろうと思ったのです。「Aさんが親権をとらずに帰国したのは、決して子どもを育てる気がなかったからではなかったと思います。でも実際に育てることができなかったで、自分の希望を要求すべきでないと感じているかもしれません。子どもが、母親は自分との関係を拒否しているとか、母親に大切に思われていないと思うのは辛いことです。この合意書を子どもが知った時、夫の要求のままでは、子どもの心に大きな傷を残してしまうのではないのでしょうか。

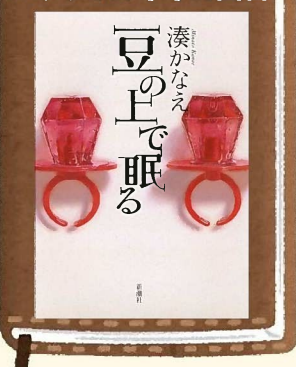
母親は決して子どもを忘れていたわけでも、拒否しているわけでもないのだ、ということが、子どもに伝わるような書き方は、子どもにとっても大切だと思うのですが。」

私の言葉を聞いて、Aさんは涙をポロポロとこぼし始めました。きっと、子どもを思っこれまで何度も流したのと同じ涙だったのではないかと思います。Aさんは、「それは私の気持ちです。そうしてほしいです」と、静かに言いました。そして、心が緩んだような表情をしました。弁護士はAさんの思いをしっかりと理解し、結果、子どもへの配慮が含まれた合意書が成立しました。

外国人の相談者は、弁護士などの「地位の高い」職業者や、公官庁などの「権力」者に対して、そしてそもそも日本人に対して、自分の本音を言えない、言うべきではない、言われるとおりにすべきだ、と考える場合があります。日本人も、医者や弁護士に「言いにくい」と感じることもあると思いますが、それのもっと強い感じます。私は「日本人」の「相談員」ですので、相談者が私に遠慮をする可能性に注意しながら対応するように心がけています。そして、相談者が自分の主張をしてよいのだと思ってもらえるよう、努めているつもりです。

Aさんの件は、私はある意味踏み込んだことをしました。本人自身が自己主張をすることと、私が代弁をすることの境界は、微妙なものです。代弁は、上手いって当然であり、間違っていた場合に生じる問題は多大です。上手いってAさんのケースは、「たまたま」なのではないことに、相談における専門性が求められているのだと、気を引き締めたいと思っています。

スタッフおすすめ図書



「豆の上で眠る」

(湊かなえ著・新潮社)

通勤路の本屋前を通った時、「豆の上で眠る??湊かなえ!!」と目に留まり、買い求めて興味深く読み始めました。

前半は、少女期の姉の失踪にまつわる出来事の回想が、妹(小1)によって繰り返し繰り返されて、少し退屈気味になり何度か途中でもうやめようかと思いましたが、「豆の上で眠る」ような感覚を背中に感じながら読みすすめました。後半は、失踪2年後に家に帰ってきた姉を喜び迎える家族の中で、ただ一人違和感を持ち続ける自分を責める妹。疑惑と納得の中で揺れ動く様子が彼女の目と心を通して語られ、一気に読み終えることができました。

さすが「湊かなえ」、読み終えた後も布団の中の小さな豆の感触が何とも言えない微妙な刺激として、私の背中に今も残っています。(協会常務理事・金相文)

Youは何しに国流へ？

第2回

センターで活動している人を紹介します☆



私が国流で活動を始めたのは、2010年に広報とよなかを見て日本語ボランティア養成講座に参加したのがきっかけです。センターの存在は知っていても、ここで実際にどんな活動をしているのかはよく知らなかったのではじめは「自分にもできるのかな」という心配もありました。

日本語交流活動に参加して、「教えないでください、聞いてあげてください」というアドバイスをもらった時に、日本に住む外国人や外国にルーツを持つ人の背景はそれぞれ異なるのだと考え始めるようになりました。

最初は自分の興味・関心から始めた活動ですが、友達のように「洋ちゃん！」と声をかけられる若者たちもいて、ここに来ると「自分の知ら

ないことがまだまだたくさんある」と改めて気付かされます。

学習者の方との会話だけでなく、自分の参加する活動以外でのボランティアとの会話が増えたことで、新しい活動や人に出会うきっかけになりました。相手が自分の話をしてくれることも多く、それがさらに私の興味・関心につながることも多いです。話そのものだけでなく、「どうしてそう思うのか」を知りたいと思っています。

ここでは日本語ボランティアとしての関わりだけでなく、センターに集う人たちと多様な関わり方ができることが嬉しいですね。自分の立場からできる限り応えたいと思っています。



日本語交流活動ボランティア

長谷川 洋司さん(78)

フォトレポート おやこでにほんご

毎週火曜日10時～12時 岡町・庄内・千里図書館で外国人母子対象に実施



ある日の「おかまち・おやこでにほんご」の活動風景。「お月見にちなんで月の絵本の読み聞かせをしています」

ある日の「せんり・おやこでにほんご」の活動風景。「今日はお料理交流。メニューは炊き込みご飯とお吸い物です。」



ある日の「しょうない・おやこでにほんご」の活動風景。「ボランティアも全員子育て中のママなので話がはずみます」



コラム なんちゃ・カンチャ言わせてもらえば (第103回)

「生まれ変わっても」 皇甫康子 (ふあんぼ・かんちゃ)

PTAの広報誌から「生まれ変わったら何になりたいか」という質問を受け、返事に窮しました。子どもの頃は男に生まれ変わりたいと願い、成長するにつれ、日本人に生まれ変わりたいと思うようになりました。「在日」の女に生まれなくなかったという思いは自分を否定してしまいます。クジラになりたいとか、イルカになりたいとか書いてやり過ぎそうかとも思ったのですが、そういうわけにもいきません。

結婚差別を受けた先輩の女性は、今度生まれてくるのなら、日本人の普通の女の子に生まれたいと、つらい思い出を語ってくれました。後輩のお母さんから、腹の立つことばかりなので、生まれ変わるなら木になりたいと言われ、爆笑したこともあります。

この質問自体に違和感を覚えるのは私だけでしょうか。いろいろ考えて、結局、「生まれ変わっても今の自分で良いです」と返事を書きました。でも、こう思えるまでにはたくさんの時間と出会いが必要でした。「あるがままの自分」を良いと思えるまでの努力と葛藤は、それぞれ言い尽くせるものではありません。理不尽なことに遭遇すると、「何で自分だけが」と腹が立ちますが、いつまでも「かわいそうな自分」ではられません。そんなときは気持ちの切り替えが必要ですね。

体を動かすと爽快な気分になります。嫌なことは汗になって流れていきます。怒るということはエネルギーが充填しているので、うまく放出しないと終わめ失敗をしてしまいます。本を読み、映画やミュージカルを観て感動することも良い気分転換になります。1984年、炭鉱ストライキに揺れるイギリス北部の街で、バレエ・ダンサーを夢見る少年が、厳しい環境にもかかわらず、家族や地域の人たちの愛に支えられ夢を叶える「ピリー・エリオット、リトルダンサー」を観ました。正直、あまり期待していなかったのですが、主役をはじめ、子どもたちの演技が素晴らしく、驚きました。母を失った寂しさ、閉鎖目先の炭鉱でストライキの先頭に立つ、父や兄から求められる男らしさに辟易とする気持ちなどを、細やかに力強く表現していました。歌、踊り、迫力満点の演技に圧巻の2時間半でした。ピリーは何度も夢を諦めようとしてますが、思いとどまりません。その理由は踊っているときだけは、自分が解放されるからだと言います。舞台上でピリーの人生を演じる側と、観る側と一緒に現実から解放され、思わぬ力が湧き上がります。まだまだ自分の変容できると、疲れた心に言い聞かせ、出演者に大きな拍手を送りました。同時上演されている、ソウルのピリーにも会いに行きたいです。

登録グループの活動紹介



No.3 関イ連(関西インドネシア友好協会)

——関イ連としての活動を始められたきっかけを教えてください。

杉原：私たちの団体は当初「関西インドネシア友好団体連絡会」というのが正式名称です。設立のきっかけは、第二次世界大戦までさかのぼり、その当時インドネシアへ行っていた人たちが、自分たちの青春は戦争中だったけれどもインドネシアで親切にされたこともあり、戦後インドネシアからの留学生を支援しようということで始まったそうです。そのうち在大阪インドネシア総領事館から「近畿各地にある団体をひとつにまとめて窓口を作ってもらえないか」という相談があり、総領事館との窓口を兼ねて、関西インドネシア友好団体を結成し、その連絡会ということで立ち上がりました。現在は正式名称が変わり、「関西インドネシア友好協会」といいます。

——どのような活動をされていますか。

杉原：総領事館とともにインドネシアとの文化交流を進めていくのが基本姿勢なのですが、大阪だけでなく、神戸や京都、奈良でも活動しています。インドネシアの歌を歌う「大阪ラグラグ会」や「ボーカーマニス」という女性のグループでは竹で作られた楽器アングルンを演奏したり、料理教室もあります。昨年は総領事館と一緒に「インドネシアの夕べ」という会を行い、留学生も含めて総勢50名が舞台上に立ちインドネシアの歌や楽器の演奏をしました。こういった文化活動だけでなく、それを支える寄付活動や下支えもしています。また日本国内だけでなく、インドネシアで日本語を学習している学生にワークショップとして書道展をしたこともあります。

渡辺：歌もただ歌うだけでなくインドネシアの文化や社会の背景が歌詞の中にたくさん入っている

とよなか国際交流センターには、市民による自主的な国際交流活動を支援するための登録グループ制度があります。実際の活動内容や国際交流への思いを伺いました。

ですよね。そういうのを解説しながらインドネシアを知ってもらいたいというのと同時に、自分自身も随分インドネシアのことを研究し、それをまた他の人に伝えていくというようなこともしています。インドネシアと日本は非常に文化が近いんです。詳しく知れば知るほど仲間みたいな。関イ連で2か月に一回発行しているニュースレターにも研究して調べたことを投稿しています。

杉原：大学との提携もありますね。インドネシア語を研究されている先生方とのつながりもあり、その大学に来ている留学生と交流したり、インドネシアの大学で日本語学科を立ち上げる際に支援したりもしました。

——今後目指していきたいことはありますか。

杉原：ここ数年は経済連携協定(EPA)で看護師や介護福祉士になるためにインドネシアから来日しているのでその人たちのサポートもしており、これも関イ連全体としてももう少し広がって活動したいなと思いますね。

【活動についての問い合わせ先】

関イ連(関西インドネシア友好協会)

(0797)-3 2-5072(杉原)

活動日時：不定期

とよなか国際交流センターお知らせ

「こくりゆうだより」第103号(2017年11月号)

発行元・問い合わせ:(公財)とよなか国際交流協会

〒560-0026 大阪府豊中市玉井町1丁目1-1エトレ豊中6F

阪急宝塚線豊中駅すぐ

開館時間:9:00~21:30(貸室受付は20:00まで・水曜休館)

TEL:06-6843-4343 FAX:06-6843-4375

E-Mail:atoms@a.zaq.jp

WEB:http://www.a-atoms.info/



SNSも随時更新中!

「とよなか国際交流センター」で検索!

